

地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	愛媛県	事業実施主体	八幡浜市	地域再生計画名	「安全・安心なまちづくり」八幡浜みなと再生計画
計画期間	平成27年度～令和3年度	評価責任者	八幡浜市 産業建設部長 垣内 千代紀		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年	H25	年	中間実績	基準年	最終実績	指標総数		達成数			
	フェリー岸壁の耐震化の達成		0.0%	H25	—	—	—	100.0%	R4	100.0%	○	3	1	令和4年3月にフェリー岸壁が完成し、「フェリー岸壁の耐震化」が達成された。
	離島航路利用者数の維持		2万人/年	H25	2万人/年	H29	24,307人/年	2万人/年	R4	17,332人/年	△			令和2年以降は新型コロナウイルスの影響により、離島航路利用者が2.7万人（R1）から1.6万人（R3）と最大約1.1万人減少した。令和4年度実績においても1.7万人のため、目標を下回ったが、今後の観光需要の回復により、観光客の増加が期待される。
	フェリー車両輸送台数の増加		328,124台/年	H25	330,000台/年	H29	335,765台/年	340,000台/年	R4	290,294台/年	△			令和2年以降は新型コロナウイルスの影響により、フェリー車両が37万台（R1）から26万台（R2）と最大約11万台減少した。令和4年度実績においても29万台のため、目標を下回ったが、令和4年度の実績では乗用車のフェリー利用が増加していることから、今後の観光需要の回復により、乗用車の増加が期待される。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	みなとオアシス”みなと”の来場者数	1,281,100人/年度	H25	—	H29	1,024,200人/年度	—	R4	961,000人/年度	—			令和2年以降は、新型コロナウイルスの影響により、利用者が減少している。今後の観光需要の回復により、観光客の増加が期待される。

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（H29）	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	港湾施設整備【事業費ベースの進捗率】	フェリー岸壁 2バース 臨港道路 260m	フェリー岸壁 0バース 臨港道路 0m	フェリー岸壁 2バース 臨港道路 260m	令和4年4月1日にフェリー岸壁として供用開始した事により、マグニチュード9.0と想定される「南海トラフ地震」が起きても、緊急物資などの海上輸送の発着地として使用することが可能となった。また、現在就航しているフェリーは、いずれも3000トン級であるが、将来の大型化（4000トン級）に対応した岸壁となった。また、令和5年3月に高規格道路「大洲・八幡浜自動車道」の八幡浜インターチェンジが供用を開始したため、四国、九州の高速道路網とフェリーを組み合わせた「九州・四国・関西を結ぶ新たな国土軸」としての役割が、ますます高まっていくことが期待される。臨港道路については、八幡浜みなとと入口に1車線追加し、整備を終えている。
	漁港施設整備【事業費ベースの進捗率】	浮防波堤 4基（21m×4基）	浮防波堤 0基	浮防波堤 2基（45m×2基）	大島漁港の玄関口である浮防波堤の改良により、離島航路の定期船と漁船の安全係留を確保し、災害時の海上輸送拠点としての役割を担う事が可能となった。平成30年8月のオープンした交流拠点施設「大島テラス」による島民と観光客の賑わいと憩いの空間を作ることに、交流人口が増加し、離島航路利用者数の維持に寄与することが期待される。
その他の事業	フェリーターミナル整備事業	フェリー利用者の利便性の向上、バリアフリー化への対応及び大規模災害発生時の避難を考慮した施設整備を実施			令和4年4月1日にフェリーターミナルビル、屋根付きスロープ、道路駐車場を供用開始した。フェリーターミナルビルは、鉄筋コンクリート造の4階建てで、外観デザインは段々畑をイメージしており、八幡浜らしい外観である。また、フェリーターミナルビルは耐震性能を有した「津波避難ビル」として整備しており、ビルの4階に最大500人が避難できる津波避難場所である。通常時は八幡浜の景色を楽しめる展望デッキとして一般に開放するほか、まちづくりの活動の場としても活用し、八幡浜の観光スポットとなった。フェリー棧橋の上に、バリアフリーに対応した屋根付きスロープを整備し、段差無しでフェリーに乗船下船でき、安全に利用できる施設を整備した。
	みなとオアシス“みなと”を中心とした地域交流事業	八幡浜港内に整備されたみなとオアシス・道の駅“八幡浜みなと”を中心とした地域交流事業を実施			みなとオアシス・道の駅“八幡浜みなと”において、民間店舗などの各施設と八幡浜市が連携し、港を中心とするまちづくりや観光事業を行っている。みなとを中心とした交流人口の増加がフェリー利用客の増加の一因になっているものと推測される。また、みなとを拠点とし、隣接する定期船乗り場から大島へ渡る観光客もおり、離島航路利用者数の維持にも寄与している。
	大島における水産振興事業	漁業の生産、加工などの試験研究、作業の共同化による経営の効率化、担い手の育成のため水産振興事業を実施			島民の約1/3が漁業に従事し、市全体で漁業者が減少傾向にある中、島内の漁業者は一定数を維持しており、大島における漁業の重要性は高い。近年は閉校となった小中学校などを利用し、アワビ種苗や海藻の陸上養殖を行っており、本格的な生産体制に移行しつつある。海藻を使用した加工品の開発も行っており、安定的で持続可能な水産事業の振興を通じ、離島航路利用者数の維持に寄与することが期待される。また、生産されたアワビや海藻は平成30年8月にオープンした交流拠点施設において、島の特産品として販売したり、調理して提供するため、今後、交流人口の増加に寄与するものと期待される。
	地域高規格道路大洲・八幡浜自動車道整備事業	八幡浜港に接続する地域高規格道路大洲・八幡浜自動車道整備事業を実施			平成29年度に全区間が事業化され、八幡浜IC～八幡浜東ICの区間は、令和5年3月に供用開始した。フェリー岸壁と同時期に整備されることで、九州から四国を経由して京阪神に至る新たな国土軸として機能することが期待され、今後のフェリー車両輸送台数の増加に大きく寄与するものと思われる。
	愛媛マルゴト自転車道事業	愛媛県全体でサイクリングパラダイスを目指し観光促進を図るため、愛媛マルゴト自転車道事業を実施			県内一円において、コースの整備、イベントの開催など各種の取り組みが行われている。“八幡浜みなと”は、サイクリングコースの基地として機能しており、サイクルイベントも開催している。
計画外で独自に実施した事業	みなとまちづくり協議会の活動	八幡浜港とまちの活性化、賑わいあふれる安全で安心な「みなとまちづくり」を目指して協議会を開催			雇用創出や観光客誘致などの地域活性化を協議するために設立された市民団体で、八幡浜港の魅力を発信し、イベントの開催や今後の港のあり方に関する調査と研究などを行っている。平成22年に「港弁全国化プロジェクト」を立ち上げ港弁を商品化。平成25年には、八幡浜市と連携した取組が評価され、八幡浜港が四国で初めて「ポート・オブ・ザ・イヤー2013」に選出された。平成28年には、八幡浜港に寄港した「ばしふいっくびいなす」の歓迎式典、帆船「みらいへ」を誘致する等、様々なソフト事業に取り組んでいる。平成28年12月には、設立趣旨及びこれまでの活動実績が評価され、「港湾協力団体」として、全国で初めて指定された。本協議会の誘致活動により、令和4年11月に四国初開催となる第13回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in八幡浜を八幡浜みなとで開催した。北海道から九州・鹿児島まで、全国各地から過去最多となる27オアシスの他、八幡浜を代表する市内グルメ、柑橘販売店舗など29店が出店し、合計56店が出店した。また、2日間で3.5万人が来場し盛況となった結果、地域経済への波及、新しくなった港湾及び漁港のPRに繋がった。
	大島交流拠点施設整備事業	本土から大島への交流人口の増加を目指すため交流拠点施設整備事業を実施			大島において、平成30年8月のオープンした交流拠点施設「大島テラス」による島民と観光客の賑わいと憩いの空間を作ることに、交流人口が増加し、離島航路利用者数の維持に寄与することが期待される。

④評価方法	評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。
-------	-------------------------------------

⑤事後評価の公表方法	八幡浜市のホームページに掲載
------------	----------------

⑥計画全体の総合評価	本計画にて地方創生港整備推進交付金を活用したフェリー岸壁の整備により「フェリー岸壁の耐震化」が達成された。「離島航路利用者数の維持」「フェリー車両輸送台数の増加」の目標は、令和元年まで達成していたが、令和2年以降は新型コロナウイルスの影響により、利用者が減少したため、目標を下回っている。今後の観光需要の回復により、フェリー及び離島航路の利用者が回復するとともに、八幡浜港は物流・防災の拠点港としての役割、大島漁港は交流人口の増加が期待される。
------------	--

⑦今後の方針等	本事業により、耐震性能を有した新フェリーターミナルと大島漁港の浮防波堤（定期船等の発着場のリニューアル）が完成した。また、民間事業者によるフェリー及び離島航路の新造船が就航し、多くの観光客を受け入れる環境が整った。更なる観光・交流人口の増加を図るために、今後は旧フェリーターミナルの跡地を有効活用し、「フェリーターミナルの機能強化」「八幡浜みなとの利便性向上」「商業施設の誘致」を目指した再開発に取り組んで行く。
---------	--